

Title	吐魯番出土文物研究会会報 第29号 : 特集・敦煌出土陶罐・陶鉢銘(Ⅱ)
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 29 p.1-p.4
Issue Date	1990-01-15
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78839
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1990年1月15日
叶鲁番出土文物研究会

第29号

特集・敦煌出土陶
罐・陶鉢銘（Ⅱ）

敦煌出土四~五世紀陶罐·陶鉢銘集成(II)

— 附、書道博物館所藏三世紀陶罐銘 —

關尾史郎・町田隆吉編

【敦煌出土四～五世紀陶罐・陶鉢銘集成Ⅱ】

- [illegible]

(念) (思)

之。苦莫相□、樂莫相□。從別以後、無令□□注□□□□□□□□□□

1) 北大、次のVとあわせて、首尾完備した銘文とする。

V 年次未詳阿平？陶罐銘 (二) (82M21出土 墨書・行数不明 〈録〉北大、六三一頁)

(注) (臘) (郊)

□於生人、祠□社伏、徹於□外。千秋萬歲、乃復得會。如律令。

VI 前涼建興廿五 (三三七) 年二月趙季波陶罐銘 (82M31出土¹⁾ 墨書・一三行 〈写〉富士、五五
(録) 富士、五五 町田、一〇三頁、北大、六三〇頁)

建興廿五年」二月十二日戊辰」、趙氏之家得」死。男子季波」之身死。天注・」地注・年注。歲²⁾

」注・月注・日注」・時注。生死」異路、千秋」萬歲、不」得相注作³⁾。」「急々⁴⁾如律」令。

1) 同墓からは、このほかにもう一点陶罐が出土している (北大、六三〇頁、参照)。／2) 富士、
歳を件に作る。／3) 富士、件を体にする。／4) 富士、々を脱す。

VII・VIII 前涼建興廿六 (三三八) 年正月某氏妻黑奴陶罐銘 (一) (二) (82M33出土 朱書・行数不明
(録) 北大、六三〇頁)

(鉛)

建興廿六年正月壬午朔十九日丁酉直□¹⁾之妻黑奴之身死。今下斗瓶・五穀・鈐人、用當復地上。青
(罰) (不加蒯) (殃) (咎)

烏子告、北辰詔、□□令死者自受其殃□、□□□移央轉□、遠与他郷。如律令。

1) 北大は積読不能分を一字とするが、文意が通じない。

IX 北涼永安元 (四〇一) 年八月韓治陶罐銘 (82M40出土¹⁾ 朱書・行数不明 〈録〉北大、六二九
頁)

(厭解)

永安元年八月丙寅朔²⁾十一日丙子直□、大男韓治、汝身死。適值八魁・九坎、厭解³⁾天注・月注・
(萬)

日注・地注・歳注、注□如□□。千秋□歳、不得相忤。便利生人、各如天。如律令。

1) 同墓からは、このほかにもう一点陶罐が出土している (北大、六二九頁、参照)。／2) 同年八
月の朔日の干支は癸酉、十一日は癸未である。／3) 前号のC-VII、参照。

X 前涼建興卅六 (三五八) 年正月傅女芝陶罐銘 (82M64出土 墨書・行数不明 〈録〉北大、六三〇
頁)

(莫)

建興卅六年正月丙辰朔五日庚申直□¹⁾之□傅女芝、汝自薄命早終、□盡壽窮。汝死、見重復八魁・
(無令) (於生)

九坎、太山長閭、死者傅女芝、自往應之。苦莫相念、樂莫相思。從別以後、□□死者注□□人。祠
(萬) (會)

社臘伏、□□□。千里□歳、乃復得□。如律令。

1) 北大は積読不能分を一字とするが、文意が通じない。

XI 前涼建興廿七 (三三九) 年三月傅長然陶罐銘 (一) (82M65出土 墨書・一三行 〈模〉北大、六

四六頁図七－8 〈録〉北大、六三〇頁)

(鉛)

建興廿七年三月丙子朔」三日戊寅、傅長然身死。今」下斗瓶・五穀・鈐人、用當復」地上・地下。
(歿) (歿)

青烏子¹⁾、北辰詔、」令死者自受其央罰、」不兩加移央轉咎、遠」置他鄉。各如律令。」傅長然、
(厭解)

汝死、適值」八魁・九坎、當星四時。」厭解天注・地注・歲注・」月注・日注・時注。千秋」萬歲

、不相注作。各²⁾」律令。」

1)子の下、告あるべし。Ⅻも同じ。／2)各の下、如あるべし。

- Ⅻ 前涼建興廿七(三三九)年三月傅長然陶罐銘(二)(82M65出土 墨書・一三行 〈写〉富士、五六
六 〈録〉富士、五六 町田、一〇三頁 北大、六三〇頁)

(鉛)

建興廿七年三月丙子朔」三月戊寅、傅長然¹⁾身死。今」下斗²⁾瓶・五穀・鈐人、用當」復地上・地
(歿) (歿)

下。青烏子、北辰」詔、令死者自受其央罰、不」兩加移央轉咎、遠置」他鄉。各如律令。」傅長然
(厭解)

汝死、適值八魁・」九坎、當星四時、厭解」天注・地³⁾・歲注・月注・日」注・時注。千秋萬歲、

不相注作。各如律」令。」

1)富士、傳を傳に作る。／2)富士、斗を什に作る。／3)地の下、注あるべし。

- Ⅻ 前涼建興十七(三二九)年八月某人陶罐銘(82M67出土 墨書・行数不明 〈録〉北大、六三〇
頁)

(身)

(斗瓶)

建興十七年八月辛未朔六日丙子直死、敦煌效穀東鄉□山里□犯□家□□男□□子□死。今下□□・
(鉛) (詔)

五穀・鈐人、□□□里後人地上生人。青烏子¹⁾、北辰□、令□□□□□□□□

1)子の下、告あるべし。

*なおこのほかにもう一例銘文(朱書・一〇行前後)を有する陶罐の出土が報告されているが(北大、六三一頁)、詳細は不明である。

【附、書道博物館所蔵三世紀陶罐銘文】

- I 西晉泰始三(二六七)年某人陶罐銘(洛陽出土 朱書・一一行 〈録〉書博、二二頁(一部)
中村、二七葉乙 町田、一一六頁)

泰始三年□□□□」西□□□□□□」五祖以來□□□□」□□陽□□□□」麗□□□□□□

」下□□□□□□」到□□□□□□」□鬼□□□□□□」神□□□□□□」鎮如□□□□□□

□」地□□□□□□□□

- II 西晉太康三（二八二）年十二月新某陶罐銘（洛陽出土 朱書・一五行（録）書博、二二頁（一部） 中村、二八葉甲 町田、一一六頁）

太康三年十二月壬申朔十三日甲申直危、」天帝使者謹爲新氏之家、鎮厭」立墓冢中新故□□三丘
 （魁）（坎）
 ・五墓。」天墓・地墓土口當路口墓□□□四時行度八口・九口、八□□□□朔玄望十二辰□
 □□□布六千」□□□行從大□□□□神共□□□□□□五」獄究詩草□□□□□□□□
 □」黃太陽之宿菖音九萌木之精齊中」安土死者得行瑩。將軍口鬼備守・丘」丞・墓伯・藉鬼多歸地
 下□□□□行」序直墓門長口均寶生人堂□□□下就。生人見日月、死人□□□問地」戸即覆絹□□
 □□□□能□□□」假詔子能顯口黃口能。千秋萬歲、」得福望、不得重複。急如」地下詔書・律令
 。」

冢

（以上）

■ 紹介「第一屆國際唐代學術會議論文集」（臺北：臺灣學生書局，一九八九年）
 一九八八年一月二九日から三十一日の三日間にわたって開かれた表題の国際学会の報告集であり、収録された報告は四六篇に達する。報告者は台湾をはじめ、韓国、香港、アメリカ、フランス、そして日本の六カ国に及んでおり、日本からは池田温「採訪使考」、今枝二郎「関于玄宗皇帝的思想」、内山知也「中唐期小説的虚構問題」、愛宕元「唐代州縣城郭の規模と構造」、谷川道雄「関于河朔三鎮藩帥の継承」、日野開三郎「王建の前蜀建国と仮子制」、および何漢心（大阪大学）「唐朝銓選制度之創建者」の計七氏の参加・報告があった。
 内陸アジア関係では、嚴耕望「唐代北疆直接領轄之境界」、金榮華「李白先祖「隋末以罪徙西域」辨」、王民信「薛仁貴西征」、黃約瑟「兩唐書薛仁貴傳」などがある。このほか敦煌出土の文物を取り上げたものが何篇かあるが、おもなものとして陳祚龍「看了兩種模擬的敦煌唐抄道經以後」と、周鳳五「敦煌唐写本六韜殘卷校勘記」の二篇がある。いずれも表題の文献に対する書誌学的な研究である。
 一方吐魯番出土の文物を取り上げたものは、やはり少ない。しかしその蘇瑩輝「墨離」、「墨離川」、「墨離海」、「墨離軍」考略」は、わずか一〇頁足らずのものながら、TAM225出土の敦煌文書にみえる「墨離」の考証を行なう。これが日中両国で注目されていること（本誌第一三三号、参照）を想起すると、まことに興味深い。また莊申「號國夫人遊春圖考」では、絵画資料にみえる女性の服飾について、吐魯番出土の帛画や俑などとも比較しながら検討している。（N）

事務局（連絡先） 〒182 東京都調布市国領町5-19-14

荒川 正 晴 方

TEL 0424(81)4633

吐魯番出土文物研究会 (The Research Society for Turfan Relics)